



岡村病院
院内報

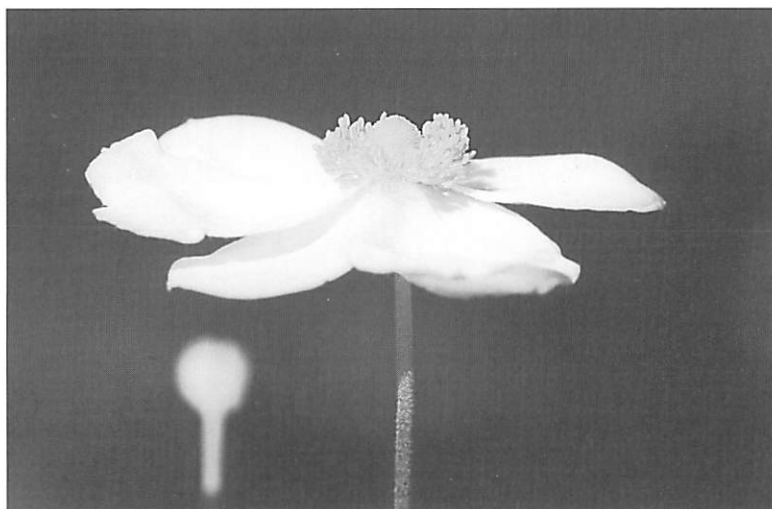
歩 (あゆみ)

第 51 号

発行 岡村病院
編集 歩(あゆみ)
編集委員会
平成19年11月10日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者様本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



秋明菊 (シュウメイギク)：今の季節、いろいろな場所でみられます。菊の名前がありますが、キク科ではなく、キンポウゲ科です。中国の原産で、京都の北、貴船地方に多いことから、貴船菊とも呼ばれ、秋牡丹の別名があります。花言葉は、「忍耐」です。

高松内科クリニック 院長 高松 和永先生 写

今月のことば

一人ひとりが病院の顔

入院されていた患者様が退院される時、アンケートを書いて頂いておりますが、入院中の印象として多くの方が、医師、看護師その他、担当の職員がやさしかったとか、病気や薬の事について「分かり易く説明してくれて良かった」とか書いて下さっていて、本当にありがたいと思います。しかし少数ですが、「人の話を充分聞かないで、はやとちりした返事をして来る人があった」とか「早口で言っている事がよく分からない事があった」

など相当きびしいご意見を書いて下さっている方もあります。大切なのは、そういう言いにくい事を率直に言って下さる少数の方のご意見です。謙虚に誠意をもって聞かなければならないと思います。

職員一人ひとりが病院の責任と信用を背負って患者様に対応しているのだという事を忘れないで、いつも患者様の立場に立って考え、どなたに対しても誠実に対応いたしましょう。一人ひとりが病院の顔です。



特別寄稿 藤川先生の短編小説

「賀代子と初おばあさん」

藤川クリニック 院長 藤川 義久



夏の盛りを迎えたある日の夕暮れ、居宅訪問介護事業所、『レッツ・ゴー』の詰所では、少しも涼しくならないクーラーが、ガーガーと音を立てていた。その下では、五、六人の女性が団扇をバタバタさせながら訪問記録をつけている。年の頃は五十歳前後で、夫はサラリーマン、農業など色々だが、この部屋に来ておしゃべりが始まると、十歳以上は若い集団と勘違いする人も居る。その中で声が一番大きいのが賀代子である。

「ねえねえ、皆んな聞いてちや。今日は大変な一日やったがやきい」

「あなたはいつも大変な日ばかりじゃないの」東京の山の手の奥さん風に澄ました順子がお茶を入れながらそっぽを向いたまま応える。

「今日は本当に大変やったが」賀代子の声が一段と大きくなり、立ち上がった。その隣に座っている加奈はノートを頭にかざしてつばが飛んでくのを防いでいる。

「今日山野さんのお家に行ったがよ。そしたら五分遅刻ゆうて言われたが。そんな筈はないと思うたけど、柱の時計を見たらその通りやったが。もう、こんこんとお説教されてしもうて」

「そればあのことで大変とか言いよったらヘルパーは出来来へん」一時大阪に住んだことがある玉子が大変大阪弁で言った。

「山野さんは時計をいつも五分進めはってんです。そないなことも知らへんでしたか。私らあ、十分前に着くようにしてまふ」

賀代子が、がっくりと肩を落とした時、電話が鳴った。

「はい、レッツゴーでございます」順子が電話に出た。

「はいはい、言い合いはそれくらいにして、お仕事よ」電話を置くと、順子が賀代子に向かって言った。

「山本さんというお宅からの電話だけど、お隣の笹岡初さんという独り暮らしのおばあさんの様子がおかしいんですって」

「ごめんくださーい」賀代子が叫ぶと隣の山本さんが出て来た。

「笹岡のおばあちゃんがね、昨日から姿が見えんがです。独りなので普段からも私らあ心配しよるがです」

賀代子と玉子は玄関の戸を叩いたが反応がない。中に入ってみると、廊下まで塵が散乱していて、長い間掃除された形跡がない。二人は足が汚れないように、抜き足差し足で埃だらけの廊下を歩いた。居間に入ると独りのおばあさんが布団に埋もれるように寝ていた。枕元には煮物の入った鍋が置いてあり箸が挿しかけてある。

「大丈夫ですか？ 笹岡さん」賀代子が言うとおばあさんは布団から顔をによきっと出して言った。「あんたらあ誰ぜよ」

「ホームヘルパーの者です。初さんの具合が悪いと聞いて伺いました。何かお困りの事はないですか？」

「あたしゃあ何んちゃあ困っちゃあせん。今日は早う寝ようと思うて床に入ったがやき」

「このまま帰るわけにも行きませんので、お部屋を片付けておきましょうか」

「かまん、かまん。明日片付けるきに」

仕方なく賀代子と玉子は後ろ髪を引かれる思いで外に出た。

「大丈夫やろかねえ。掃除も出来そうもないくらいのおばあさんみたいやき」賀代子が言った。その時、初ばあさんの家の窓のカーテンが小さく開いた。その隙間から初が、帰っていく二人の後ろ姿をじっと見続けていた。

その翌朝。「ごめんくださーい」賀代子が再び初ばあさんの家を訪問した。

「初さん、こんにちは。お元気ですか？」

「ああ、昨日のヘルパーさんかえ。あたしゃあ、昨日はびっくりしてしもうてお構いも出来んで、済まざったねえ」言いながら、ごそごそと起き出して布団の上に座った。

「いえいえ、かまいませんよ。それより、生活、お独りで御不自由じゃあないですか？ご近所も心配していますが」言いながら賀代子は畳の上にある新聞紙や広告の紙などを押しつけて少し隙間を作ってそこに座った。

「あたしゃあまだ大丈夫と思うちゅうけど、東京におる息子が心配しゆうがです。けんど、ヘルパーさん頼むがも、何となく情けない気がしてねえ」

「お独りで頑張っちゅうのは立派なことだと思いますよ」

賀代子が言うと初ばあさんはにっこり笑って急須にお茶を入れ始めた。賀代子が首を伸ばして急須の中を見ると、開ききった茶の葉は何時替えたか分からないような色をしている。賀代子は目を白黒させながら、差し出されたお茶を飲み干してから言った。

「ところで初さんはお名前からすると大豊のご出身じゃないですか。私は豊永ですが」

「そうかね。あたしゃあ落合よね。懐かしいねえ」初の顔が前に出てきた。

「私のお父さんは炭焼きをやっていたきに落合の山には、よう行きよりました。山奥やき、帰りが遅い時など心配したもんです」賀代子は完全な土佐弁になっていた。

「そうよねえ。雪が深い時らあ遭難した人もあったきねえ」

「私が六歳ばあのとときです。父に連れられて山の炭焼き小屋に行ったがです。午後から急に雪が降り始めてあっという間に吹雪になりましてねえ。父に背負われて山から降りてきたがですよ」

「そうかね。野市に嫁さんに来たがやね。時々は山に帰るかえ？」

「数年前に母も父も亡くなったき、墓参りの時だけです」

「そら悪いことを聞いたねえ、ごめんなさいよ」初ばあさんはにじり寄って賀代子の手を取った。指の節が太くなり少し曲がって、かさかさした手だった。賀代子は持っていたハンドクリームをその手に塗りながら言った。

「私は遅生まれやったき、生きちよったら母も初さんと同じばあの年ながです」

「そうかね。これからちよくちよく遊びに来てや。田舎のことも色々話したいきにね」

「はい、近くに来たら、必ず寄りますきね」

賀代子は玉子を携帯電話で呼び寄せて家の中を掃除して帰った。

その日の夕刻。「お帰りなさいませ」順子が二人の髪に付いた蜘蛛の巣を手でつまんで取りながら言った。「今日も大変な一日だったようですね」

賀代子は何時もと違ってその皮肉を軽くいなして言った。

「時にはええ事もあるがですよ。この仕事は出会いと別れの物語ですからね」

「何時ものおしとやかさが戻って来まひたなあ」玉子がお饅頭の入った皿を賀代子の目の前に突き出しながら言った。賀代子がひとつ取って一口かじった時、電話が鳴った。近くに居た賀代子が電話を取った。

「早く来て。助けて…」初の声だった。そこまで聞くと賀代子は電話を放り出すと、饅頭を銜えたまま部屋を飛び出した。車のキイを持つ手が震えて中々差せない。やっとエンジンがかかり、何とか道路に車を出した。十分もあれば着けるんだ、大丈夫、落ち着け、落ち着けと自分に言い聞かせながら車を走らせた。一つ目の信号が赤だった。咄嗟に左右を見たが車は来ていない。「ごめんなさい」心の中で叫びながら車を急発進させた。信号破りは生まれて初めてのことだ。二つ目の信号は青だったが、あと五十メートルくらいある。「変わらないで」心で祈りながら信号の中に飛び込んだ。通り過ぎる寸前に黄色に変わっていた。後はもう初の家まで信号は無い。残りは一キロくらいだ。道の心配がなくなると今度は初の事がまた頭に戻ってきた。「もしかして急な病気でも出たのかしら」

最後の角を曲がると前方にパトカーの点滅する光が見えた。道路は両方向とも車でふさがれている。近くまで来た時、賀代子は事故のためだと気付いた。「どうしよう」考えたが、一瞬後に賀代子は車から飛び出して、そのまま後も見ずに駆け出していった。走りながら賀代子は叫んでいた。

「初さん、もう少しよ。待ちよってよ」

初の家によっとの



思いでたどり着いた。最近走ったこともないのと不安とで心臓が爆発してしまいそうだった。部屋には布団しかなかった。他の部屋を探そうとした時風呂の方でなにか人の気配がしたような気がした。「大変。溺れたか」賀代子は風呂場に飛び込んだ。初が風呂の中で座り込んでいた。賀代子は一瞬息が止りそうになったが、前に回って初の顔を見た時、その目は開いていた。浴槽には半分しか湯が入ってなく、その底に電話機が沈んでいた。賀代子は風呂に飛び込んでその体を抱きかかえた。「入っているうちに力が抜けてしもうて。出れなくなってねえ。電話を近くに置いちよいてよかった。

よお来てくれたねえ」初が弱々しく言った。

「良かったねえ、水が少のうて」

賀代子は安堵と疲れから、風呂の中に初と一緒に座り込んだ。

「もう独りじゃあ、やっぱり無理になったのかねえ」つぶやくように言う初の顔を賀代子がハンカチで拭いた。

「大丈夫よ。私らあがおるきね」

そう言いながら賀代子は蛇口をひねって温かいお湯を入れた。

完

(香南市野市町西野 2192-2)

閉塞性動脈硬化症

— 足の痺れ、歩くと足が痛いなどの症状はありませんか？ —

心臓血管外科

医長 西村 哲也



最近メタボリックシンドロームという言葉がテレビなどでよく耳にされることが多いと思います。肥満があって、高血圧、高脂血症、糖尿病などの三つの病気の内二つ以上の病気をもって



いる人は、心臓血管系の病気を合併し易い状態にあると言われ、この状態をメタボリックシンドロームと呼んでいます。要するに動脈硬化が進行し、狭心症、心筋梗塞といった心臓疾患、脳梗塞といった脳血管疾患を引き起こしやすい状態という事です。心臓、脳の病気となれば命に関わってくるためマスコミなどは、これらの病気に関する特集を組んでよく放送しておりますが、こと閉塞性動脈硬化症ということになれば、耳慣れないため、あまり強い関心を持たれていないようです。そういうわけで、今回は、ちょっとマイナーな閉塞性動脈硬化症について簡単に紹介したいと思います。

動脈硬化症は動脈の壁にコレステロールなどが沈着し血管内腔が徐々に狭くなり、血流障害を起こしてくる病気です。同時に動脈壁にカルシウムなども沈着して、また動脈壁の弾力が無くなって

硬くなってしまいます。これが動脈硬化と言われるものです。これは血管自体の病気ですから全身の血管が冒されることになります。特に心臓や、脳の血管に動脈硬化がひどければ狭心症や脳梗塞などの病気として前面に出てきます。そして同様に足の血管に動脈硬化が強くなり、血流障害を来たしたものが、閉塞性動脈硬化症というものです。この病気では、足の血流障害に起因した症状が出てきます。症状は4段階に分類されており、フォンテン分類と言われ、1度から4度まで順に症状が重症化していきます。1度は、足の冷え、痺れ感を認めるもの、2度は、歩いたりするとふくらはぎなどが凝ってくる、痛んでくるなどで歩けなくなる状態を言います。しばらく休むと痛みは改善し、また歩けるようになります。これを間欠性跛行といいます。3度はじっとしていても足が痛む状態、4度は足の指、足などに潰瘍ができたり、ひどい場合は壊死（足の指などが死んでしまう）になってしまっている状態、に分類されています。足の痺れなどを認めてもそのまま放置し続けると、壊死に陥ってしまうまでに悪化するということです。

早めに診断し、治療を受けることが大切である事はどの病気に対しても言えることですが、閉塞

性動脈硬化症も、足の痺れを認めれば早めに受診されることをお勧めします。診断方法は、血流障害が主な原因ですから、まず足の脈が触れるかどうかを確認することから始まります。これは医者でなくても、患者さん本人でも確認できます。足の脈は、足の甲と内くるぶしの後ろ側の2箇所に脈を触れることができます。また左右両方の足の脈を触れてみる事が大切です。脈が触れないとか、触れても左右差があるのか、ないのかなどから、血流障害が推測できます。脈が触れないとか、左右差がある場合には、やはり閉塞性動脈硬化症の疑いが強く、詳しい検査が必要になってきます。

● 脈を確認した後、手と足の血圧を同時に測定する検査を行います。普通、血圧は手の血圧より足の血圧のほうが高いのですが、血流障害があれば逆に足の血圧が低くなっています。ここまでの検査でおおむね閉塞性動脈硬化症の診断ができますが、治療に際しては、どこの血管が細くなっているの

かなどの評価が必要であり、そのために、造影CT検査、血管造影検査などが行われます。

治療は、以前はよくバイパス手術が行われていましたが、最近では血管内治療といって、狭窄部をバルーンカテーテル（先端に風船のついた細い管）で広げたり、ステントを留置して拡張する方法（金属製の網目状の管で血管の中から押し広げて支える）が行われています。これらは、手術と違って切ったりしないため比較的に簡単に行えます。

閉塞性動脈硬化症は、その名の通り動脈硬化が主因で、生活習慣を改善することで予防しうる病気です。タバコをやめる、運動をする（歩行運動など）、間食をやめる、過食しないようにする、ストレスを溜めないなど、を心がけることが大切です。

生活習慣を改善し、メタボリックな体を是正し、動脈硬化症を克服しましょう。

「風邪と抗生剤と耐性菌」

薬 局

肌寒くなってきたこの頃、風邪の患者さんが増えてきます。皆様、大丈夫ですか？

風邪とセットのように増える抗生剤の飲み方について、少しお話ししたいと思います。

● 風邪とは、鼻・のどに細菌やウイルスが感染して「くしゃみ・鼻水」「咳」「発熱」などが起こる病気です。風邪だから抗生剤を、と来院される方がいますが、実は風邪の8～9割がウイルス感染といわれており、抗生剤が効く風邪はほんのわずかです。

症状に合わせて抗アレルギー剤や解熱剤、咳止めなどで対処するほかありません。

しかし、ウイルスと細菌のどちらに感染したかの区別は容易ではありませんし、ウイルス感染で弱った体にさらに細菌が感染して病状が悪化することもあるため、場合によっては抗生剤が処方されます。

さて、処方された場合、皆様はどのように服用していますか？

- ① 出された日数をきちんと飲みきる。
- ② 病気が治ったようなら途中でやめる。

理想の飲み方は①です。下痢や発疹などの副作用が起こらない限り、きちんと飲みきって下さい。理由は、抗生剤の効かない「耐性菌」を作らないためです。

また、抗生剤の中には一定の量を一定の期間飲まないと効果が出ないものもあります。

この「耐性菌」という言葉、テレビや新聞で聞いたことがありますか？

今や世界中で問題になっています。今までは抗生剤で治る軽い病気だったものが、「耐性菌」が生まれた事で、効く薬の無い厄介な病気へと変化してきています。

● 極端に言えば、「体調が良くなり処方された抗生剤を途中で飲み止めたが、すぐ病気をぶり返したので同じ抗生剤を飲んだ。しかし、効かなくなっていた」ということになりかねないのです。

また、菌には何万種と種類があり、系統によって抗生剤を使い分けられています。

風邪をひきかけたら以前処方された抗生剤の残りを飲む、という話もちらほら聞きますが、これ

は全く意味が無いばかりか、「耐性菌」を生み出しかねません。

感染した菌やウィルスには効かない抗生剤を飲んで、風邪は治らず副作用で下痢まで起きた、なんて散々ですね。

お医者さんの出した薬は自己判断せずにきちんと指示に従うことが大事です。

もちろん疑問があれば、遠慮なく医療スタッフにも聞いて下さい。

一番の治療は栄養満点の温かい食事と十分な睡眠で体力を回復させて、免疫を高めることです。さらにいえば、予防が一番！

うがい・手洗いもしっかりしましょう♪



患者さんからのお便り 岡村病院に入院して

元3階315号室住人 谷相 勝二

猛暑続きの異常な夏。

毎日の疲れがたまったのか、体調が思わしくなく、だるくてしんどくて、なんともならなくなり、8月13日、とうとう我慢できずに日頃からお世話になっている高松内科クリニック、高松先生に診察をお願いしました。

高松先生は「こりゃ2・3日入院して検査せんといかん」、ということで岡村病院を紹介して下さったのが始まりでした。

夕刻でしたが、ちょうど診て下さった岡村病院のやさしい植村先生は、「熱が40度近くあるし、貧血と低血糖がひどい。すぐ入院して点滴と検査を明日からします。2週間はかかります」とのこと。(オット、こりゃメッタ)と思ったけれど大事な体のこと、覚悟を決めての入院生活がはじまりました。

毎日毎日、朝から晩までだいッ嫌いな点滴三味、美人の看護師さんに処置して頂いても、嫌なものはいや！看護師さんに「痛かった？ゴメンネ」なんてやさしく言われると少し心が和むけれど…。

今回の入院中に初めての経験は『鼻からの胃カメラ』。胃カメラで検査をすると聞かされた時は、前に他の病院で、とても嫌な経験をしたことがあったので、逃げ帰ろうかと思いました。ところが

今度は「鼻からだとっても楽ですよ」って植村先生に言われ、疑心暗鬼のうちに初体験。ところがこれはほんとに信じられないほど楽でした。口からと違って実施中に会話出来るし、自分のお腹の中を余裕で見ることが出来ました。

とにかく、入院生活2週間の予定が3週間お世話になりましたが、無事退院させて頂きました。

そうそう、入院生活では、特に点滴中は読書がしづらいこともあって、テレビをなんとなくよく見ることが時間的に多くありましたが、病室のテレビはサービス満点！アームがついていてベッドに上向きで見られます。そのため、今までまったく興味のなかったテレビドラマ、特にキムタクの「ヒーロー」、続いて「エンジン」なんかに感動して…、すっかりキムタクのファンになっちゃって、恥ずかしいけど退院早々「ヒーロー」見たくて映画館まで足を運んだことでした。(これ余談)

さて、看護師さん方にお別れのご挨拶、「お世話になりました。ご縁があればまたきまアす」と言ったら、「出来れば、もう来ない方がいいですね(笑)」。そう、もうお世話にならないように頑張らなくてはね。

入院中は色々文句も言いましたが、病院の皆さんにはほんとに良くしていただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

おかげさま

3階 看護師 松本 優子

今年の5月に就職させていただいて、あっという間に5ヶ月が過ぎました。

今年の夏はととても暑い夏でした。地球の温暖化はどんどん深刻になっていくのでしょうか。私は

南国市から通勤しています。ラッシュが嫌で少し早い時間に自宅を出ます。早朝はエアコンが必要なく地球に優しく、朝の空気は心と体に美味しいです。

ある早朝勤務、雨上がり、今までに見たこともない大きな虹をめぐり仕事へ来ることができました。自然ってすごい、誰かに見せてあげたい、爽やかな1日の始まりでした。早起きは三文の得、確かに得した気分でした。

今、エコロジーがブームです。とてもいいことです。遅すぎるかもしれないけれど危機感があることはいいことだと思います。物を大切に長く使

うことゴミをなるべく少なくすること、割箸を使わないこと、など昔は普通にしていたこと、“もったいない”が“けち”と思われているのですが、当院の職員食堂はほとんどのスタッフが自分のお箸を置いています。いいことです。水も空気も無限ではないと、ほんの少し考えてみたら今の生活もありがたい気持ちになります。

おかげさまで健康で、仕事に恵まれ、美味しいものが美味しいと感じ幸せの数を足してみるといいです。心のどこかに、感謝の気持ち“おかげさま”を増やしていけますように。

院内旅行

4階 看護師 柳畑 小百合

毎年楽しみにしている院内旅行。

体調管理も万全!とっていたら、旅立つ前夜、咳と発熱。十分な睡眠もとれず、鼻水をすすりながら出発。

3度目の沖縄。今回はちょっと足をのびし、やんばる地区でマングローブカヤックとシーカヤックで自然を満喫する予定。風邪薬も効かず、食欲も無く「無理かな??」と思う気持ちと、「ここまできたら、後の事は考えず行っちゃえ!」と思う気持ちの葛藤。結局、行っちゃいました。ホテルから1時間半レンタカーで走り、やんばるの森へ到着。マングローブ林は、干満をくり返す河口域にあり、到着時は干潮で干潟が表れ、根がむき出しになっていました。象形文字の木の形でした。満潮にならないとカヤックでは入れないと、真っ黒に日焼けした現地のガイドさんより説明があり、まずはカヤックの漕ぎ方の指導を受け、マングローブ林を背に海へ。2人で力を合わせて漕いでいきます。波に向かい蛇行しながら必死で漕ぎ、気が付くと岸は遥か彼方。かなり沖まで来ているのに、海は透き通り海底が綺麗に見えました。ガイドさんから、泳いでもいいですよと言われ、Tシャツと半パンで海にドボン。「気持ちいい~!!」大の字で浮かんでみました。これもまた「気持ちいい~!!」足がつかそうなくらい綺麗に海底が見えるのに足がつかないので潜ってみると結構深い。

すごい!そして綺麗!そして海水が目にしみて痛い!あつという間に3時間が経ち、出発点に戻り休憩。ガイドさんより地元のパインとサーターアンダギーをご馳走になり、エネルギー充電。そして、マングローブ林に潮が満ちてきて再出発。今度はマングローブの狭い水路を進みます。“ぶつかる~”“右~”“左~”と叫びながら進んで行きました。途中、ハクセンシオマネキ(カニ)が根にしがみ付いているのを見たり、倒れかけている木を寄生しているツタが支えているのを見たり、塩味の葉っぱをかじったりしました。マングローブは、海水が混じる最悪の環境に適応していて、取り入れた塩分を葉に蓄え体外に出したり、葉だけでなく露出した根でも光合成を行っているそうです。嬉しい!気がつく私の身体も大自然で癒され、風邪症状も全く無くなっていました。私も嬉しい?!

約5時間、自然を満喫し心も身体もリフレッシュ。

その他にも、泥パック・吹きガラス体験・市場での食事・沖縄の月見等、3泊4日楽しく過ごしました。

最終日の朝、目が覚めると喉が痛い・身体が重い・鼻水が…治っていたのにナゼ?“病は気から?!”心も身体も現実に引き戻され、鼻水をすすりながら帰路へ。来年の旅行を楽しみに、また1年がんばります。

ふれあい看護体験の受け入れを行いました

8月3日、高知西高校の生徒さんが1名ふれあい看護体験に来られました。院内の各部署を見て回りながら説明を受けたり、また病棟での食事介助や看護業務の見学など、さまざまなことを体験

していただきました。

ふれあい看護体験後、感想文を寄せていただきましたので、次に紹介させていただきます。

「看護体験を通じて」

高知西高校3年 上岡 育美



私はこのふれあい看護体験を通して、改めて看護師という仕事はとても素晴らしい仕事だと思いました。実際に現場で働いている看護師の皆さんはとても忙しく動き回っていて大変そうでした。しかし、患者さんとコミュニケーションをとっている時の看護師さんは、忙しさなど感じさせないような笑顔でとても生き生きしていました。ふとした会話からも、患者さんに対する配慮や、思い

やりがあり、見ていてとても感心しました。看護の仕事は人を相手にする仕事なのでこういった配慮や思いやりの心が一番大切だと思いました。

この体験で私は初めて患者さんの血圧を測りました。今まで友達どうしで測ったことはあったのですが、実際に患者さんを測るのはこれが初めての経験でした。

最初は上手く測ることが出来ませんでした。看護師さんのアドバイスを貰って、2回目の測定は上手くいきました。とても嬉しかったです。測り終わると患者さんが、「ありがとう」と言ってくれました。この一言が私を勇気づけてくれました。患者さんと看護師さんはお互いに何かを与え合っているんだなと思い、とても心暖まりました。

この体験を通して、私はさまざまなことを学びました。将来この体験が私にとって大きな力になるでしょう。本当に良い体験をさせていただきました。

岡村病院『健康講座』に、多数のご参加ありがとうございます！

これまでも何度か不定期に開催してきましたが、今年8月から来年の3月まで、毎月1回、当院医師が健康講座の講演を、高知グリーン会館2階、グリーンホールにて行っています。



植村先生

8月、まだ暑い盛りでしたが、植村先生の「よくわかるおなかの病気～おいしく食べてすこやかに～」からはじまりました。

植村先生が当院に着任し、早や2年あまりになりますが、健康講座では初めての講演になりました。当院に導入された鼻から入れる内視鏡（経鼻内視鏡）の話をはじめ、おなかにやさしい生活をするにはどうしたらいいか、楽しいスライドを交えての講演となりました。講演後、沢山の質問がなされ、毎日の食生活や病気に、皆様が大きな関心を寄せ



川村先生

ていらっしゃる
ことがよく分
かりました。

続いて9月、川村先生の講演は、最近テレビでよく聞かれる「メタボリックシンドローム ～あなたやあ

あなたのご家族が脳卒中や心筋梗塞にならないために～」と題したものでした。

男性の腹囲85センチ、女性の腹囲90センチ以上はメタボリック赤信号と言われていますが、そのメカニズム(肥満があり、かつ高血圧・高脂血症・糖尿病のうち2つ以上の病気をもつこと)、そして、当院のCTスキャンで測定できる体内脂肪CT検査の説明もありました。そして、先生の息子さんの家庭科教科書から抜粋したという食べ物のカロリー数値の数々は、日常簡単に口にするお菓子やコンビニ弁当の驚くべきカロリー数値も発表され、会場内にどよめきと手元の資料に書き写される皆様の姿が見受けられました。

そして10月に行われた西村先生の講演「血管の赤信号！足の血管の病気について ～足の先が冷たい、痺れる、歩くと足が痛むなどの症状はあ

11月、2月、3月と以下のような予定で健康講座を開催していきます。
多数の皆様のご来場を心からお待ちしております。

日時：平成19年11月17日(土) 午後2時より
場所：高知グリーン会館(2階 グリーンホール)
高知市本町5-6-11 TEL(088)825-2701
※高知県民文化ホール(グリーンホール)ではありません

講演内容：「ちょっと気になるおしりの話」

～すでに痔主のあなた、あるいはこれから痔主になるかもしれないあなたへ上手におしりと付き合うために～

講師：岡村病院 外科医長 竹内一八先生

会費：無料

りませんか～」では、9月の川村先生の講演に続き、メタボリックシンドロームは、心臓にも狭心症や心筋梗塞などを合併しやすいことや、足の血管に動脈硬化が強くなり血流障害をきたす「閉塞性動脈硬化症」という病気をも引き起こすことなどを説明させていただきました。以前はバイパス手術が当たり前だったこの病気も、最近は血管内治療とあって、切らずに簡単に行える治療になってきていることなど、最近の治療方法についても説明させていただきました。

この西村先生の講演は、健康講座過去最高の、参加者140名を記録した講演会となりました。予想を大幅に上回る参加者の皆様の数に、資料や座席が間に合わず、大変ご迷惑をおかけいたしました。

しかし、これほど沢山の皆様が日常生活の改善、そして病気の早期発見のために学習しようとする意識の高さに直接ふれることができ、我々スタッフ一同、非常に嬉しく思いました。そしてまた、皆様の思いを裏切らない病院にしていかなければならないと、改めて襟を正す思いです。



西村先生



日 時	担 当	講 演 内 容
平成20年2月16日(土) 午後2時より	谷副院長(整形外科)	未定
3月22日(土) 午後2時より	岡村院長(心臓血管外科)	心臓突然死を防ぐ方法 ～あなたの心臓は大丈夫ですか?～

● ニューフェイス ●



山中 佐枝子 さん

看護師 (3F病棟)

趣味：歩くこと

よろしく
お願いします。



インフルエンザの予防接種をはじめました

体調管理の難しい季節となりました。当院ではインフルエンザの予防接種を行っています。

対象者① 高知県内に住民登録を有し、ご本人が接種を希望する方

- 1) 接種日当日に65歳以上の方 自己負担1,000円(下記期間中1回のみ)
- 2) 接種日当日に60歳以上65歳未満で身体障害者手帳1級相当の方
自己負担1,000円(下記期間中1回のみ)
- 3) 自己負担金免除対象者の方は自己負担ありません。

実施期間：平成19年10月1日～平成19年12月28日(月曜～金曜【平日】)

対象者② 上記以外の方

実施期間：平成19年10月2日～平成20年2月29日(月曜～金曜【平日】)
自己負担2,500円(上記期間中1回のみ)

※2回目の接種は1,500円となります。保険証を持参の上、当院受付までお申込下さい。

年末年始の診療案内

* 12月29日(土)～1月3日(木) 休診

* 1月4日(金) 通常通り診療致します

なお、急患の方や具合の悪い方は、休日・時間外も
診察いたしますので、遠慮なくお申し出ください。



RKC高知放送 生活情報番組「きんとく」にて当院医師による
健康アドバイスをしています。

「ごじでば」がH19.4.6(金)よりリニューアルして放送しています。

放送時間 第2・4金曜日 午後5:30～5:45 (病院ホームページで動画配信中)

■ URL : <http://www.okamura-hp.or.jp> ■ E-mail : info@okamura-hp.or.jp